



「JICA食と農の協働プラットフォーム」(JiPFA)

中南米フード・バリューチェーン(FVC)
第一回分科会 (FVC推進官民協議会共催)

中南米FVC分科会活動計画案について

JICA農村開発部
第3チーム 課長 伊藤圭介

1. JICA 食と農の協働プラットフォーム(JiPFA)とは？

JICA 食と農の協働プラットフォーム

プラットフォームレベル

関係省庁

民間企業・業界団体

大学・研究機関

NGO

メディア

国際機関

専門家/コンサルタント

事務局: JICA

JICAが重点的に取り組んでいる／参加団体様のご要望が高い対象地域・国、分野・課題単位の分科会を設置

分科会レベル

関係プロジェクト専門家

民間企業・業界団体

大学・研究機関

協働事業組成
JICA事業への参画

報告
経験共有

個別事業レベル

個別対応

JiPFA設立の目的

- 「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けて、国内の産官学関係者が途上国及び日本の課題解決のための活動を促進するために、ゆるやかなネットワーク(プラットフォーム)を設置するもの。
- 情報や経験の共有等を通じて、同ネットワークの中から、様々な『共同活動』を産み出すことを目標とする。

<主な活動内容>

- ①分科会(情報共有・意見交換)開催(適宜)
(JICA TV会議システムを活用し、地方からの参加可)
- ②各種勉強会、イベント等の開催
- ③共同活動(共同研究・技術開発、民間企業等の海外展開、途上国及び日本の人材育成等)の企画・支援、など

2. JIPFA中南米フード・バリューチェーン(FVC)分科会とは？

- **目的:**

- 中南米地域のFVC課題と同課題解決に貢献可能な日本の企業、大学等が有する技術・ノウハウとのマッチング促進
- 同課題に取り組む人材育成(途上国及び日本)の促進

⇒ 中南米地域各国のFVC強化を通じたSDGsへの貢献

⇒ 日本企業等の中南米地域での事業展開の促進

- **主な活動内容:**

- 中南米FVCの課題、産官学関係者の取組(含:JICAの協力量針・計画)等に関する情報共有、意見交換
- 関係者間の協働促進に向けた具体的な取組みの検討

- **実施体制:**

- 事務局: JICA農村開発部第3チーム(担当:ソント、副担当:中条)
- FVC推進官民協議会中南米部会と協力・連携

① 中南米地域FVCに関する現地ニーズと本邦リソースのマッチング促進

- 中南米地域FVC課題
- 同課題解決に資する日本の技術
- 日本企業のビジネスパートナー
- ビジネスパートナーの日本技術の理解

② スマートフード・チェーン

- スマート農業技術の導入による熱帯圏畑作農業の持続可能な農業開発の可能性
- 課題別研修の形成(スマート農業、最先端食品加工・流通技術)

③ その他: JICA協力における産官学連携の可能性

- ボリビア技術協力プロジェクト「インクルーシブFVC」
- エルサルバドル技術協力プロジェクト「ゴマ」
- アルゼンティン技術協力プロジェクト「一村一品」
- ニカラグア国別研修「道の駅」

4.中南米広域フードバリューチェーン(FVC)強化における本邦技術活用 のための情報収集・確認調査

実施期間:2019年2月～2020年3月

調査対象国:パラグアイ、エクアドル、ペルー、コスタリカ、グアテマラ

(第1次調査結果により選定)



本調査の背景

- **SDGsへの貢献**:中南米地域におけるFVCの構築・強化は、地場産業の育成や域内付加価値の増大を通じて、雇用創出、貧困削減に貢献。
- **日本の技術・経験の活用促進**:同地域のFVC構築・強化にとって、日本の食・農産業分野の技術・製品・サービスの活用可能性、潜在的需要は高いものの、中南米地域ビジネス環境、現地企業パートナー等に関する情報の不足、距離的な制約によるビジネスマッチング機会の不足等により、日本企業の事業展開は限定的。

本調査の目的

日本企業の中南米地域事業展開促進を通じて、同地域のFVCを強化する。

- ①中南米地域のFVCの課題、投資環境、ビジネスパートナー等の情報を整理。
- ②FVCの課題解決に貢献可能な技術・製品・サービス等の情報を整理。
- ③日本企業が有する技術・製品・サービス等を途上国関係者に発信。
- ④中南米地域のビジネスパートナーを招へいし、日本の技術等を視察。



4.中南米広域フードバリューチェーン(FVC)強化における本邦技術活用 のための情報収集・確認調査

スケジュール:全体期間 2019年2月～2020年3月

第一次国内調査

2019年3月～4月

- ①中南米地域への事業展開に関心を持つ日本企業を対象に、同地域へのビジネスアイデア（関心を有する国、技術・製品・サービス、想定される事業概要等）、事業展開上の課題・制約要因、ODAへの期待等をヒアリング
- ②上述の結果を分析の上、調査対象国・FVCを選定
パラグアイ、エクアドル、ペルー、コスタリカ、グアテマラ

第一次現地調査

2019年5月1日～6月10日

- ①調査対象国・FVCに関する情報の収集・分析（チェーンの構成、課題、ビジネス機会、想定されるビジネスパートナー、投資環境等）

第二次国内調査

2019年6月～9月

- ①日本企業向け現地調査報告会&中南米FVCビジネス提案募集説明会（7/19第2回中南米分科会にて）
- ②同地域への**ビジネス提案を募集・選考（5社を想定）**
- ③提案が採択された企業との現地共同調査を企画

第二次現地調査

2019年10月～11月上旬（1週間×5ヶ国）

- ①**提案企業との現地共同調査（現地のビジネスパートナー候補を訪問し、ビジネス環境等について情報収集）**
- ②現地セミナーの開催（日本企業が有する技術、製品、サービス等を紹介）

○本調査後のフォロー

- ・ 中小企業・SDGsビジネス支援事業
- ・ 海外投融資事業
- ・ 民間連携ボランティア
- ・ 技術協力・課題別研修との連携

日本企業の中南米地域事業展開

招へい事業

2020年1月または2月

- ①**現地企業・業界団体等による日本企業の視察、意見交換**

4.中南米広域フードバリューチェーン(FVC)強化における本邦技術活用 のための情報収集・確認調査

現地調査対象5か国 について



4.中南米広域フードバリューチェーン(FVC)強化における本邦技術活用 のための情報収集・確認調査

ペルー		優良FVC	課題/ニーズ	推定される日本企業技術
		1. ブドウ	ポストハーベストの処理・冷蔵設備不足。 輸出手続き(現物確認、コールドチェーン)	冷蔵・冷却装置、コールドチェーン、気象情報提供、トレーサビリティ
		2. マンゴー	栽培用設備、灌漑システム、肥培管理、技術指導、認証、温水処理、冷蔵設備、検疫対策	冷蔵・冷却装置、灌漑、品種改良、加工技術、選別機、栽培技術
		3. クランベリー	収穫の効率化、灌漑、貯蔵、コールドチェーン、輸送コスト	灌漑、加工技術、冷蔵・冷却装置
		4. 柑橘類(マンダリン)	カンキツグリーニング病(HLB)対策、栽培管理	選別機、加工技術、栽培技術・管理
		5. マス	飼育・給餌管理、水温・水中酸素濃度管理、コールドチェーン、品種改良、疾病に関する研究	養殖設備、水浄化設備、冷蔵・冷却装置、品種改良
		6. コーヒー	育苗施設、衛生管理、品種改良、技術指導、認証、加工技術、貯蔵施設	冷却装置、品質管理、クラウド農場管理、
基礎データ(ペルー)				
農業セクター輸出総額	660億ドル	提供された情報: Next Frontierとしての推薦国、輸出農産品の伸びが著しい。(JETRO)		
主要セクター	コーヒー栽培・新鮮野菜・果物(ブドウ) 野菜・果物加工・食品加工(フルーツジュース・チョコレートなど) 乳製品 魚・魚介類加工	調査団所感: 海岸地域での輸出向け野菜、果物生産の近代化が急激に進み(アスパラ、ブドウ、柑橘類など)多くの輸出向けバリューチェーンが形成される。水産では中南米最大の漁獲高を誇るが、魚介類加工輸出産業のコールドチェーンの強化などに日本企業進出の可能性。		
支援体制	JICA事務所、JETRO事務所			
日系社会	あり			

4.中南米広域フードバリューチェーン(FVC)強化における本邦技術活用 のための情報収集・確認調査

エクアドル



基礎データ(エクアドル)

農業セクター輸出総額	8,700億ドル
主要セクター	バナナ、プランテン えび 切り花 ココア 粗パーム油
支援体制	JICA事務所
日系社会	なし

優良FVC	課題/ニーズ	推定される日本企業技術
1. エビ	自動給餌器、酸素濃度管理、用水リサイクル、ビッグデータ活用による養殖管理技術、品種改良、プロバイオティクスの活用、包装、トレーサビリティ	養殖技術、水浄化設備、品種改良、トレーサビリティ、冷蔵・冷凍設備、パッケージ
2. マグロ	パッケージ、トレーサビリティ(貯蔵は自動化している)	トレーサビリティ、パッケージ
3. 切り花	処理技術、パッケージ	栽培技術、パッケージ
4. 有機カカオ	栽培管理技術、生産性向上、認証コスト削減	クラウド農場管理、トレーサビリティ
5. バナナ	生産性・品質向上、トレーサビリティ	栽培技術、トレーサビリティ
6. ブロッコリー	パッケージ	栽培技術、品種改良、クラウド農場管理

提供された情報: 高地で栽培された野菜の評価が高く、ポテンシャルがある(JETRO)。海外のスーパーマーケットチェーンが開拓、参入

調査団所感: 無農薬カカオはヨーロッパで高価で取引される。水産においては海岸地域で中南米最大の養殖エビ産業、また、マグロ加工などのバリューチェーンが形成されている。日本企業はエビ養殖、高地のブロッコリー栽培に興味

4.中南米広域フードバリューチェーン(FVC)強化における本邦技術活用 のための情報収集・確認調査

パラグアイ



基礎データ(パラグアイ)

農業セクター輸出総額	550億ドル
主要セクター	大豆(大豆ミール、大豆油、大豆加工品) 牛肉(冷凍牛肉、生、冷蔵牛肉) 穀物(大豆・米・コーン)
支援体制	JICA事務所
日系社会	あり

優良FVC	課題/ニーズ	推定される日本企業技術
1. オーガニック砂糖	土壌改良、認証の効率化	オーガニック野菜栽培技術、土壌改良、トレーサビリティ
2. ゴマ	若年労働力不足、収穫の機械化、トレーサビリティ	土壌改良、品質管理、トレーサビリティ、パッケージ
3. 牛肉	オーガニックビーフのトレーサビリティ、管理システム	トレーサビリティ、クラウド管理、衛生管理、冷蔵
4. キャサバ	土壌改良、農業機械不足、加工技術不足	土壌改良、クラウド農場管理、加工技術(スターチ)
5. 粗放作物(大豆、小麦、トウモロコシ、ひまわり、菜種)	疫病、虫被害等のモニタリング、土壌改良、生産性、肥料	土壌改良、クラウド農場管理、品質管理
6. 養鶏・養豚	管理システム	養鶏・養豚場衛生管理、冷凍・冷蔵装置、パッケージ

提供された情報: 台湾と国交で中国ライバル企業がない。日系企業はエントリーポイントとなる。(国土防災開発)

調査団所感: 大豆と牛肉の主要産品に頼る農業国。官民で輸出農産品の多様性を模索しており、日本の技術に期待する声も聞こえる。日系移住地では日系移民が農業で確固たる地位を築いており、現地パートナーとの連携の可能性は他国より高い。

4.中南米広域フードバリューチェーン(FVC)強化における本邦技術活用 のための情報収集・確認調査

グアテマラ



優良FVC	課題/ニーズ	推定される日本企業技術
1. カルダモン	加工施設、害虫・疫病対策、生産性向上	品種改良、栽培・加工技術、殺卵技術
2. ゴマ	技術指導、品質管理、トレーサビリティ、認証、品種改良、普及活動強化	栽培技術、品質管理、品種改良、加工技術、トレーサビリティ
3. パナナ	制度整備、安全性確保、コールドチェーン、水不足、気象情報、害虫・疫病対策	灌漑、気象情報提供、トレーサビリティ、衛生管理、品種改良、品質管理、貯蔵改善
4. コーヒー	品質管理、輸送の効率化、貯蔵の改善	品質管理、貯蔵の改善
5. 野菜、メロン	悪天候、害虫・疫病対策、国際規格への適合、持続的生産、品種改良	気象情報提供、品種改良、品質管理、トレーサビリティ、接木技術

基礎データ(グアテマラ)

農業セクター輸出総額	5,100億ドル
主要セクター	砂糖 バナナ、プランテーション、メロン コーヒー豆 パーム(加工油) 調味料(カルダモン)
支援体制	JICA事務所
日系社会	なし

提供された情報: 低地、高地があり、多種の農作物ができ、米国の支援を受けた農業研究所、学校もあって専門人材がいる。(JETRO)

調査団所感: 輸出生鮮果物では、北米市場(アメリカ、メキシコ)に向けたメロンが有望。北米市場に近く、コーヒー、バナナなどの輸出産品を持ち、高地は輸出生鮮野菜・果物に適しているが、政府の農業部門の技術支援は滞っている。農業インフラ、コールドチェーン、投資環境の不備など、企業進出に際する問題も多い。

4.中南米広域フードバリューチェーン(FVC)強化における本邦技術活用 のための情報収集・確認調査

コスタリカ



基礎データ(コスタリカ)

農業セクター輸出総額	4,500億ドル
主要セクター	新鮮野菜・果物(バナナ、プラン テン、パイナップル)ソース・ジャ ム等加工 コーヒー 牛肉(冷凍)・乳製品 鮮魚・魚加工
支援体制	JICA支所
日系社会	なし

優良FVC	課題/ニーズ	推定される日本企業技術
1. バナナ	植物衛生、害虫・疫病対策、精 密農業、梱包技術、用水供給	品種改良、クラウド農場管理、トレー サビリティ、灌漑
2. パイナップル	環境問題による生産性低下、国 際規格適合作物の栽培技術、害 虫・疫病対策、トレーサビリティ	灌漑、気象情報提供、品質管理、ク ラウド農場管理、トレーサビリティ
3. メロン	労力不足、輸送問題、多雨、生 産量の低下	品種改良、栽培技術、選別機、ト レーサビリティ、気象情報提供
4. スペシャルコー ヒー	果肉、殻の利用、梱包改良、ト レーサビリティ	トレーサビリティ
5. パーム油	害虫・疫病対策	排水処理設備、衛生管理
6. 牛肉	低生産性(遺伝的要因、衛生と 飼養条件)トレーサビリティ	衛生管理、トレーサビリティ

提供された情報:パイナップルは優良輸出産品。農産物の多くは北米(米国、メキシコ)に輸出。

調査団所感:小国ながら中米では農産品輸出ではグアテマラに次ぎ二位。バナナ、パイナップル、メロンなどの生鮮果物、プレミアム・コーヒーなどが主要輸出産品。北米向けの加工産業も育つ。生産管理の向上で、国際市場でのコーヒーの価格が上昇。

4.中南米広域フードバリューチェーン(FVC)強化における本邦技術活用 のための情報収集・確認調査

本調査後のJICAによる支援の可能性

①民間連携中小企業・SDGsビジネス支援事業への応募

本調査を通じマッチングをした相手国企業及び対象国でのビジネス展開についてさらに詳細な調査を実施する場合に活用可能。

②海外投融資への応募

開発効果の高いビジネスを具体的に展開する場合に活用可能。「出資」と「融資」による資金面の支援。

③民間連携ボランティア

自社の社員を途上国へボランティアとして派遣するもの。グローバル人材の育成を支援。

④課題別研修への参加

開発途上国の政府関係者や企業関係者を対象とした研修を本邦で実施する際に視察先や講師として参加。自社の製品、技術、サービスをアピールする機会を提供。

5. 今後の予定

- 第1回分科会:2019年4月25日
- 第2回分科会:2019年7月19日
 - 中南米FVC第一次現地調査結果の報告、ビジネスアイディア募集説明会
 - 中南米地域農業・農村開発分野におけるJICA協力量針・事業概要の説明会
- 第3回分科会:2019年12月(予定)
 - 中南米FVC第二次現地調査結果の報告
 - 招へい事業・課題別研修の本邦視察先等に関する意見交換

本分科会で意見交換、情報共有したいテーマ、要望等がございましたら、事務局までご連絡ください！

- ソント: Sontot.Yukari.2@jica.go.jp
- 中条: Chujo.Maho@jica.go.jp